

主催：静岡市文化協会  
 主管：静岡市演劇協会・劇団静芸  
 後援：静岡市  
 静岡市教育委員会  
 (公財) 静岡市文化振興財団  
 静岡新聞社・静岡放送

劇団静芸公演

夜空の下に降る花は

原作 いずみ凜

シズオカ

「ホタルがつかなく二つの夜」

中川正臣 脚色・演出



ふじのくに芸術祭2015 演劇コンクール参加作品

2015年11月8日(日)

静岡市民文化会館中ホール

開場：17:30 開演：18:00

チケット：一般2,000円 (当日2,200円) / 学生1,500円 (当日1,700円)

劇団静芸

検索

研究生募集 観るだけが演劇じゃない!

初めての方でも安心。いまからでも遅くない本格演劇!  
 仕事、学校の帰りに、家事が終わったら集合!  
 劇団静芸では高校生からシニアまで頑張っています。

以下項目に2つ以上当てはまる方は、劇団員になりましょうよ。

- 15歳以上 (中学卒業) である。
- 職場 (学校) と自宅との往復に飽きた。
- 子育ても終わって自由になったので、好きなことやりたい。
- お芝居をやったことがない。でも、お芝居に興味がある。
- 部活や習い事以外でも、さらに学びたい。
- 実はひそかに俳優・女優になるのを夢見ていた。
- でも実は、人前に出るのが苦手だったりする。
- 舞台の裏側がどうなっているのか興味がある。
- 裁縫や工作が好きだ、得意だ。衣装や大きなハリボテ作りたい。
- 芝居の効果音作り学びたい。
- 思い切り声を出したり体を動かしたりすると気持ちよさそう。
- スポットライトって奴を浴びてみたい。
- 日々の生活に刺激がなくて、つまんない。

【お申込み等】詳しくは別紙チラシ・公式Webまたは、  
 TEL080-7005-3972 (担当中川) 迄お問い合わせください。

【予告】2016年5月21日(土)

静岡市民文化会館・中ホール

「ミステリーの女王」アガサ・クリスティ <没後40年特別企画>  
**「そして誰もいなくなった・・・。」**

来年、一通の招待状を皆様にお届けします。

原作：アガサ・クリスティ  
 脚色：中村 和光 (劇団RIN)  
 演出：中川 正臣 (劇団静芸)  
 <劇団静芸・劇団RIN・TPSスタジオ合同企画>



最新情報はインターネットで!  
 来年公演にむけて  
 出演者&スタッフ募集中です!!  
 初心者・学生さん大歓迎!!!



お問い合わせ

劇団静芸

劇団静芸

検索

Studio (稽古場) TEL080-7005-3972  
 〒420-0871 静岡県静岡市葵区沼府1丁目10番37号  
 E-mail: gekidan@shizugei.jp

ご来場ありがとうございます。劇団員一同、心より感謝を申し上げます。

本作品は2013年公演「カモメに飛ぶことを教えた猫」を脚色した、いずみ凜さん原作の作品です。

1945年7月9日の岐阜空襲を描き、岐阜の地域劇団「劇団はぐるま」によって、岐阜のみならず岩手や松山でも上演された作品です。戦争体験で多い被害者側の悲惨だったという視点だけでなく、戦争の加害者としての視点も描く、貴重な良作であります。

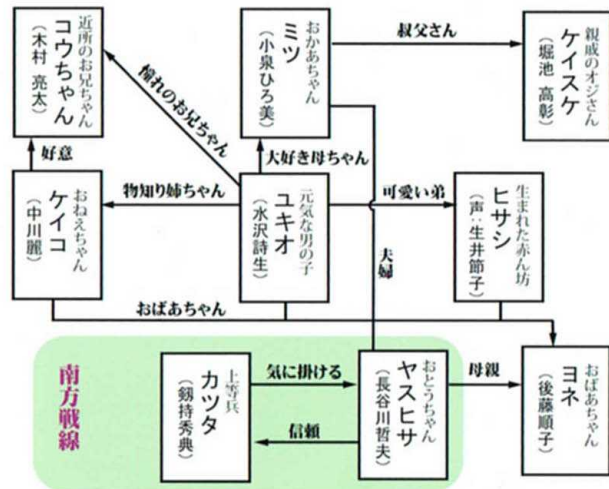
この原作を読み込めば読み込むほど、静岡大空襲と重なる点が多く地方版として再構築できないかと考えました。原作者の快諾を受け試行錯誤で脚色しました。また、空襲記録では抜け落ちていることの多い、向敷地が空襲を受けていたことなども盛り込んでおります。その結果、本作は静岡弁を話す身近な家族物語となりました。

今回、公演を支えてくださったTPSスタジオの皆様、プロデュースHiの堀池様、ほかスタッフの皆様にご感謝を申し上げます。

劇団静芸が戦後70年の節目に届けたいと、正面から取り組んだ作品「夜空の下に降る花は -シズオカ-」を、よろしくお願ひします。

劇団静芸 一同

関係図 1945年 静岡県静岡市



【原作者紹介】 いずみ凜 (いずみりん)

1960年、岐阜市生まれ。演劇やミュージカルの脚本をはじめ、NHKなどの脚本で活躍。代表作に『ナガサキん グラフィティ』(2003年度斎藤寅次郎戯曲賞優秀賞)。子供にみせたい作品多数あり。

父親は、劇団静芸と同じ、全日本リアリズム演劇会議(東)に加盟する「劇団はぐるま」の故こばやしひろし氏。現在は東京都在住。



# 夜空の下に降る花は

原作 いずみ凛

ふじのくに芸術祭2015 演劇コンクール参加作品

## ◆出演◆

キムラ ユキオ／アジアの少年

(TPSスタジオ) 水沢 詩生

キムラ ヤスヒサ(ユキオのおとうさん)

長谷川 哲夫

キムラ ヨネ(ユキオのおばあさん)

後藤 順子

キムラ ミツ(ユキオのおかあさん)

小泉 ひろ美

キムラ ケイコ(ユキオのおねえちゃん)

中川 麗

キムラ ヒサシ(ユキオのおとうと)

(※声) 生井 節子

コウちゃん(近所のおにいちゃん)

(TPSスタジオ) 木村 亮太

ケイスケ(親戚のおじさん)

(プロデュースH) 堀池 高彰

カツタ(上等兵)

(TPSスタジオ) 剣持 秀典

## ◆スタッフ◆

原作……………いずみ凛

結髪……………鈴木 英子

演出・脚色……………中川 正臣

人形製作……………生井 節子

照明……………山口 久雄

制作……………中川 正臣

(山口オフィス)

受付スタッフ……………かたせ 優子

音響効果……………中川 正臣

舞台スタッフ……………生井 善一

衣装……………後藤 順子

法月 美幸

大道具……………中川 正臣

新生 聡子

小道具……………長谷川 哲夫

細田 大地

……………小泉 ひろ美

戦時考証……………高信 忍

岡島 元男

舞台監督……………



◆内容◆  
70年前。1945年6月19日(火)の夜。静岡の街は壊滅した。北緯34度59分、東経138度24分―シズオカ。ここに攻撃目標の照準ポイントが定められた。この呉服町通りと本通りがぶつかる交差点を中心とした半径1.2kmめがけて、約130機のB29大型爆撃機が雨のように降らせたのは2,301発の爆弾と13,409発の焼夷弾。この数は、安倍川花火大会の打ち上げる玉数に匹敵する。  
……僕は静岡市に住むキムラユキオ。弟ができて、お兄ちゃんになりました。ばあば、お姉ちゃんも大喜びです。でも、食べるものがなくて、毎日腹ペコ。腹がすいても我ら少国民。お父ちゃんも兵隊に行つて頑張つてるんだから、僕たちも我慢しなきゃいけない。神国日本が勝つまで銃後を守るんだ！ 近所のお兄ちゃんコウちゃんは学徒動員で小鹿の三菱重工業静岡発動機製作所に行つてます。向敷地のケイスケおじちゃんの庭で、ユキオがホタルを見つけた夜、南方の島で戦うお父ちゃんヤスヒサも若い上官上等兵カツタと共に、戦場に舞うホタルを目にする……。  
いまだからこそ届けたい、静岡の家族物語。

## 戦後70年「演劇にできることを」

静岡市民芸術祭で二年間連続して戦争を扱った作品を取り上げることとなる。本来なら毎回ご覧いただく観客の為に同系統作品を連続させることは避けたいもののだが、戦後70年という節目を見つめた演劇が、静岡でほとんどないことを危惧してだった。静岡大空襲を扱う。

稽古を立ち上げて台本読みをしたあと、若い人たちに感想を聞いた。「よく知らないのに演じて良いのか不安」「重い、やりたくない」「辛くなるから触れたくない」など様々だった。体験してない自分たちが語ることは、おこがましいとの抵抗感が非常に強かったのだ。日本人の加害者側・被害者側の両面を見つめるのは大変なストレスを伴う。それでも学ぶのだ。作品を媒介にしての出会いと学びは公演に血肉を与える。様々な縁が生まれる。そのひとつ元日本兵・高信忍さんとの

懇談では、活字、モノクロの写真や映像の、創られた物語とも思える遠い世界が地続きに連結される感覚を覚えた。資料だけでは得られない事を語っていた。これが舞台上に生きる役達の真実として気づかない様な細部に活きている。戦争体験者が少なくなる中、直接に話を伺える機会が確実に失われてきている。想像を絶する体験のため、封印して語らない方も多いことも機会の喪失に拍車をかける。劇団静芸の創設に関わったのは特攻隊員の生き残りや、ユキオ少年の様に戦中を生きた人々だ。戦争とは何なのかを、表層だけでなく問つづけたい。演劇だからできる「当事者を、観客の目の前に立たせ、語らせて心を共有する」事で、問つづけたい。本公演が全世代の心を揺さぶる芝居となることを、切に願う。

2015年11月8日 劇団静芸代表 中川正臣(演出)